

令和元年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立草加南高等学校)

目指す学校像	困難に挑戦する強い心と豊かな人間性を育み、グローバルな視点をもって社会に貢献する人材を育成する。
--------	--

重点目標	1主体的・対話的で深い学びの実践と知識・技能の習得を、高い次元で融合する学習指導を研究し構築する。 2生徒ひとり一人の特性を多角的な観点から把握し、自主性を促しつつ成長への適切な指導を組織的に行う。 3多様な進路実現に向けきめ細かな指導を継続すると共に、大学入試改革に対応できる進路指導を確立する。 4グローバル人材育成事業やオリ・パラ教育をととして、英語・グローバル教育の一層の充実を図る。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者 学校関係者 11名
生徒 3名
事務局(教職員) 5名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					年度評価(年月日現在)		
年度目標					評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			
1	○本校生徒ひとり一人の学力を着実に向上させる学習活動を展開したい。その実現には、主体的・対話的で深い学びの手法を取入れた授業実践が必須であり、授業改善に向けた方策の研究が求められる。	○優れた学力の育成と、主体的・対話的で深い学びに着眼した授業改善を実践する。	①授業、部活動、委員会活動等について、教員の目標設定に、主体的・対話的手法を含める。 ②朝の学習、学習支援メディア、家庭学習を活用し、生徒の知識・技能の習得を定着させる。 ③授業改善に資する授業研究を実施し、授業力を向上させる。	①授業アンケートで理解度等に関する回答割合(肯定が80%以上) ②実施の可否 ③実施の可否			
2	○地域に根差した高等学校として、落ち着いた校風で地域から信頼されている。生徒の進路希望は多様であり、学力分布も広範囲である。生徒ひとり一人の進路実現には、自主性を伸ばし成長させる体制づくりが必要である。	○常に高い意識を持って、日々の活動において挑戦する意欲や自主性を向上させる。	①学校行事、部活動、ボランティア活動を活性化させ、企画立案等や情報発信させる。 ②生徒の情報を学年・分掌等で共有し、組織的に生徒を育成する。 ③eポートフォリオ等の多角的評価システムを活用し、生徒の活動実績等を蓄積させる。	①ボランティア活動地域の行事等への参加(年間10回以上) ②実施の可否 ③実施の可否			
3	○高校3年間を見通した進路指導を整備し、安定して進路実績を向上させる組織体制を確立する。それにより、学力向上、キャリア意識向上を進め、それぞれの進路実現に不可欠な自己能力を向上させる。	○生徒ひとり一人の将来を見据え、体系的かつ組織的な進路指導を展開する。	①長期休業中の大学入試対策講座の参加機会を増やす他、学習施設、関係教材の整備を進める。 ②県外先進校視察を実施し、他校の教育実践を全教員で共有し、指導法を確立する。 ③キャリア意識に係る講演会や分野別ガイダンス等により進路に対する意識を高める。	①②③ ・一般受験者数(大学希望者の60%) ・中堅校合格者数(のべ60名) ①大学入試に向けた対策講習の実施 ②県外先進校4校視察 ③実施の可否			
4	○外国語科を設置する県立高等学校として、本校の特色であるグローバル教育を全面に打出し、国際社会に貢献できる生徒を育成したい。その実現には、外国語使用率の増加、4技能育成が急務である。	○国際社会を見通したグローバル教育、語学学習に係る事業を展開し、外国語の日常的使用を加速させる。	①グローバル教育に係る本校独自の語学行事等を展開し、語学ボランティアを完成させる。 ②海外・語学研修を充実させつつ、大学・研究機関等と連携し語学への意識を一層高める。 ③英語検定に係る語学指導ノウハウを確立し、生徒の意識を向上させ、合格者増を図る。	①行事再編成と新規行事の計画 ②実施の可否 ③参加研修等、及び合格者数(準2級以上100名)			

学校関係者評価	
実施日(年月日)	
学校関係者からの意見・要望・評価等	